

地域シリーズ：『坂本界限』を巡る

比叡山に登り延暦寺や日吉大社の文化財建造物を見て回りましたが、その多くが江戸時代以降に再建されたものでした。それは1571（元亀2）年、織田信長の比叡山焼き討ちで焼失したからです。この焼き討ちで延暦寺だけでなく坂本の町も焼けてしまい、数千人の犠牲者が出たといわれています。その後、坂本は延暦寺や日吉大社の門前町として復興し、今では里坊寺院や公人屋敷が穴太衆積みの石垣で囲われた独特の景観を形成しています。それでは坂本界限を巡ってみましょう。

《ご紹介》

延暦寺・日吉社が灰燼に帰したとされる織田信長の比叡山焼き討ちとはどのようなものだったのだろう。

信長・秀吉に仕え、晩年軍記の著作に専念した太田牛一の『信長公記』は次のように描写している。（元亀二年）九月十二日、叡山を取詰め、根本中堂、山王二十一社を始め、仏堂、神社、僧坊、経蔵、一棟も残さず、一時に雲霞のごとく焼き払い、灰燼の地と化した。山下の男女老若は右往左往して逃げまどい、取るものも取りあえず、皆はだしのまま八王子山へ逃げ登り、日吉社の奥宮に逃げ込んだ。諸隊の兵は攻め上り、僧俗、児童、智者、上人すべての首を切り、死者は数千を数えた。この記述が後の評価に大きく影響している。

一方、昭和後期の延暦寺発掘調査に基づく兼康保明の『織田信長比叡山焼き討ちの考古学的再検討』によれば、元亀の焼き討ちによる焼土跡が山上で確認されたのは、根本中道・大講堂のみであり、他の諸堂は元亀年間のはるか以前の時代に廃絶されたものが江戸期になってから再建されたとおぼしきもので、一部の礎石や根石に焼け跡が検出されたが、出土遺物などと併せると、少なくとも元亀焼き討ちの遺構とは判断されなかったとしている。横川中道についても、元亀の焼き討ちを裏付けるものは何もないとしている。

これらから延暦寺の被害を推定するのは難しいが、山下の日吉社と坂本の町は壊滅的な被害を被っている。

➤ 坂本界限



↑比叡山坂本まちあるきマップ

↓坂本比叡山口駅



日吉九月
焦土に連なる
穴太積み



比叡山東麓の坂本は延暦寺、日吉社の門前町として栄えるとともに、山上で修行していた僧侶の隠居所である里坊が集中したところである。平安貴族の信仰を集めた延暦寺は、中世には各地に多くの荘園を有する権門勢力としての性格を合わせ持つようになるが、その経済力を支えたのが坂本であった。各地の荘園から比叡山に運ばれる物資はもちろん、各地から京都へ運ばれる物資もその多くが坂本で陸揚げされ、坂本には

馬借や車借、問丸などが軒を並べるようになっていった。

しかし信長の比叡山焼き討ちにより、坂本の町が焼失してしまった。信長は焼き討ち後、明智光秀に坂本城を築かせ坂本の復興にあたらせた。豊臣秀吉も日吉社を中心とした坂本の復興に力を注ぎ、坂本は門前町として復興されていった。その復興は江戸時代にもひき続けられ、1623（元和 9）年徳川三大將軍家光の時、東照宮造営に縁の深い天海上人が日吉大社の南に日吉東照宮を造営している。日吉東照宮は本殿と拝殿を繋ぐ「権現造り」様式を用いており、日光東照宮はそれを基に再建したといわれている。

こうした変遷の結果、坂本は里坊寺院と町屋、公人と呼ばれる社寺侍の屋敷など、他には見られない町並みを形成していった。里坊は道路に面して門を構え、穴太衆積みの石垣に塀や生垣をめぐらし、清涼な川や水路とともに優れた歴史的風致を伝えており、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

信長の命を受け琵琶湖畔に坂本城を築いた光秀は、坂本の復興と近江国の平定を推し進めた。このころ光秀は焼き討ちで焼失した西教寺の復興にも力を注ぎ、妻熙子が亡くなると墓を同寺に建て自ら埋葬している。しかし1582（天正 10）年、本能寺の変で信長は自害。光秀は山崎の戦いで敗れ坂本城も落城した。亡くなった光秀とその一族は西教寺で埋葬され墓が建てられている。坂本城は 1586（天正 14）年に大津城ができて廃城となっており、わずか 15 年の短命の城であった。

光秀の菩提寺である西教寺は、日吉大社から北約 1 キロのところにある。同寺は飛鳥時代に聖徳太子が創建し、平安時代に延暦寺関連寺院として慈恵大師良源と恵心僧都源信が復興したといわれている。比叡山焼き討ちで堂舎は焼失したが、本堂は 1739（元文 4）年に

➤ 日吉東照宮



➤ 西教寺

↓ 総門



↓ 本堂



↓ 客殿



秋彼岸
西教寺にて
もみじ燃ゆ

↓ もみじ参道通り抜け



↓ 宗祖真盛上人御本廟



↓ 大本坊庭園



再建された。総檜入母屋造の豪壮な伽藍をなし、室内は江戸初期の特色を表す豪華な装飾が施されている。客殿は桃山御殿ともいい、秀吉の居城伏見城にあった旧殿を移築したものという。本殿、客殿ともに重要文化財だ。光秀との関係では、総門が坂本城門を移築、梵鐘は陣鐘を寄進したと伝えられる。総門から勅使門まで続く約 150m の参道は四季折々の風情が楽しめ、秋には「もみじ参道通り抜け」として大勢の人々が訪れる。